

## 光悦謡本『舟弁慶』



この資料は慶長年間（1596～1615年）の後半に出版された「光悦謡本」と呼ばれる装飾性の高い本です。

「謡本」とはセリフと音楽の両方が書かれた譜本で、詞章に旋律や拍子を指示する符号などが記されています。

比較的ポピュラーな演目を集めたものを内組、それ以外の演目を集めたものを外組という編成で出版されることが多く、この本は内百番と称されるシリーズの一つです。

美しい装幀を手がけたのは、本阿弥光悦やその門流であると考えられており、嵯峨で刊行されたことから、「嵯峨本」とも称されます。また、豪商・角倉素庵も出版に協力したため「角倉本」とも言われています。

装飾の特徴は、料紙に雲母刷り（きらずり）が施されていることや、文字が光悦流の書体で、古活字版であることが挙げられます。



また、表紙は薄紅色の料紙に藤巴文（ふじともえもん）が  
はみ出さんばかりに刷り出され、大らかで明朗なこの時代  
の美意識が反映されています。



装丁は綴葉装で両面書写となっています

『舟弁慶』は観世小次郎信光の作とされ、『平家物語』、  
『源平盛衰記』、『義経記』等を典拠として書かれたもの  
で、主な登場人物は、源義経、武蔵坊弁慶、静御前、平知  
盛となっています。正式な能は、五番立ての番組で行われ  
るため、その最後に置かれる曲を五番目物（切能物（きり  
のうもの）、鬼畜物とも）と言いますが、『舟弁慶』はそ  
れに当たります。

話は、義経が平氏討伐ののち、頼朝に疑われ西国に落ちて  
いく途上の出来事が二場構成で組み立てられており、前段  
は同行した愛人の静御前と摂津国・大物の浦での哀切の別  
れが見所で、後段は弁慶らとともに船出をした直後、突然

## 資料ガイド No.1

暴風に見舞われ壇ノ浦で倒した知盛の亡霊との戦いで構成されています。

(2015年11月4日公開)